

科目名称：	子どもの理解と援助	
担当者名：	米川 祥子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
心理学の理論と技法により、生涯発達の観点から子どもの発達を理解することで保育や幼児教育の効果を高めることにつなげる。幼児理解の理論と技法について演習を取り混ぜながら学び、保育者、幼児教育者として望ましい人間性を身につけていくことを目指す。		
授業の達成目標・到達目標		
心理学の理論と技法に基づいた客観的な幼児理解を目指すとともに、子どもの成長・発達を促すための適切なかわり方を学ぶ。また、子ども、保護者、保育者それぞれの立場にたち、子どもを援助する者としての姿勢を身につける。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)			80	20	100
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 臨床心理士として、 白山市の幼児相談	《経験年数1》 16年
	《内容2》 臨床心理士として、 石川県家庭教育相談カウンセラー	《経験年数2》 16年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解度	子どもの行動からその心理状態を理解し、保育者として適した対応を考えることができる。	子どもの行動からその心理状態を理解できる。	子どもの行動からその心理状態を理解しようとする姿勢をもつ。	子どもの行動からその心理状態を理解しようとする姿勢がない。
授業態度	グループディスカッションに積極的に参加し、考えの幅を広げることに意欲を持っている。	グループディスカッションに参加し、考えの幅が広がることに興味を抱いている。	自分の考えを持ち、グループディスカッションに参加している。	自分の考えを持たず、グループディスカッションに消極的である。
省察力	自分の体験や思いをふり返り、自己理解・他者理解を深めようと意識している。	他者の体験を自分の体験に引き付けて考えようとしている。	自分の体験や思いをふり返り、気づきを多く持つことができている。	自分の体験や思いをふり返ろうとしない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 保育・教育実習ふり返り～エピソード記録を使って	実習記録を読み直しておく	10分
第2回 保育・教育実習ふり返り～エピソード記録作成	前回の復習をしておく	10分
第3回 エピソード記録シェアリング(グループディスカッション)	前回課題にした記録をまとめておく	10分
第4回 乳児への対応を考える①～アタッチメント(グループディスカッション)	「乳児保育」「保育の心理学」のノートを見返しておく	10分
第5回 乳児への対応を考える②～同調行為(グループディスカッション)	「乳児保育」のアタッチメントの部分を復習しておく	10分
第6回 イヤイヤ期の背景と対応(グループディスカッション)	「乳児保育」の自己主張の部分を復習しておく	10分
第7回 幼児期の認知発達特徴～前操作期という頃(グループディスカッション)	「保育の心理学」のピアジェの理論を復習しておく	10分
第8回 幼児期前期・後期の心の表れ方の特徴(グループディスカッション)	保育実習記録を読み直してくる	10分
第9回 行動の背景にある「思い」に気づく①～防衛機制について(グループディスカッション)	実習にて子どもの問題行動を体験した記録を読み直してくる。	15分
第10回 行動の背景にある「思い」に気づく②～反動形成について(グループディスカッション)	実習にて子どもの問題行動を体験した記録を読み直してくる。	10分
第11回 「気になる子」への関わり～二次障害について(グループディスカッション)	実習にて“気になる子”を体験した記録を読み直してくる。	10分
第12回 子どもへの対応「ほめる」「叱る」と「認める」(グループディスカッション)	保育実習記録での保育者の対応を読み直してくる	15分
第13回 子育て支援について～保育現場における子育て支援のあり方と保護者対応について考える	「教育相談」のノートを見返してくる	15分
第14回 心が育つための関わり～社会的心理発達より	これまでの授業内容のふり返りをしておく	15分
第15回 自分の保育観について考える	これまでの授業内容をふり返りまとめておく	20分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への積極的関与(20%)、提出物(40%)、最終課題(40%)

課題に対するフィードバック

各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。
最終課題は、希望者には返却する。

教科書・参考書

教科書：なし。授業中に適宜資料を配付する。
参考書：テーマごとに参考書・参考資料を紹介する。